

PURDUE

UNIVERSITY®



浅見優樹
内堀一真
小島貴文
藤田ちあき

堀貴子
町田奈央
山田祥穂
吉川尚孝

同行教員: 寺島涼太
8月13日(土)~8月29日(月)

パデュー大学の発表を始めます
今回の研修はご覧の8人と同行教員の寺島先生と行きました。

Topics

- パデュー大学について
- お世話になった先生方
- 現地での生活
- 見学した診療科
- Activities
- 感想

今回の研修報告の項目です。

パデュー大学について



パデュー大学は
インディアナ州のウストラファエットという街にある総合大学で
日本からはインディアナ州への直行便はないので、乗り換え込みで約12時間の移動時間でした。

パデュー大学について



アメリカの大学では新学期は秋からなので
私たちが訪れた時はちょうど学期と学期の合間にあたり、前半の一週間と後半の一週間では車の数や人の数には圧倒的な変化がありました。

パデュー大学について



左の写真は大学周辺の模型です。

パデュー大学には敷地をかこうようなフェンスや門はなく、街そのものが大学といった印象でした。

右の銅像の写真はPurdue 大学出身で、人類で初めて月面に降り立ったことで有名なニール・オールデン・アームストロング船長の銅像です。

今回利用はしませんでした、大学の空港もありました。

パデュー大学について



大学の周辺には多くの飲食店や雑貨屋さんがありましたが、大学の校舎内にもご覧のような飲食店が何軒もありました。
そして校舎内にはボウリング場や映画館までありました。

パデュー大学について



大学全体をご紹介したようにとても広く二週間では全ての施設の見学はできませんでした。

そして、私たちは二週間のほとんどをPurdue大学の動物病院で過ごしました。動物病院自体が獣医学部の校舎となっていて、講義室や図書館もこの建物の中にありました。

獣医学部の学生は1学年80人ほどで8割は女性で、加えて既婚者の学生もたくさんいました。

Will Smith



今回の訪問で私たちの日頃の送り迎えなど二週間の間アテンドして下さった三人の先生を紹介します。

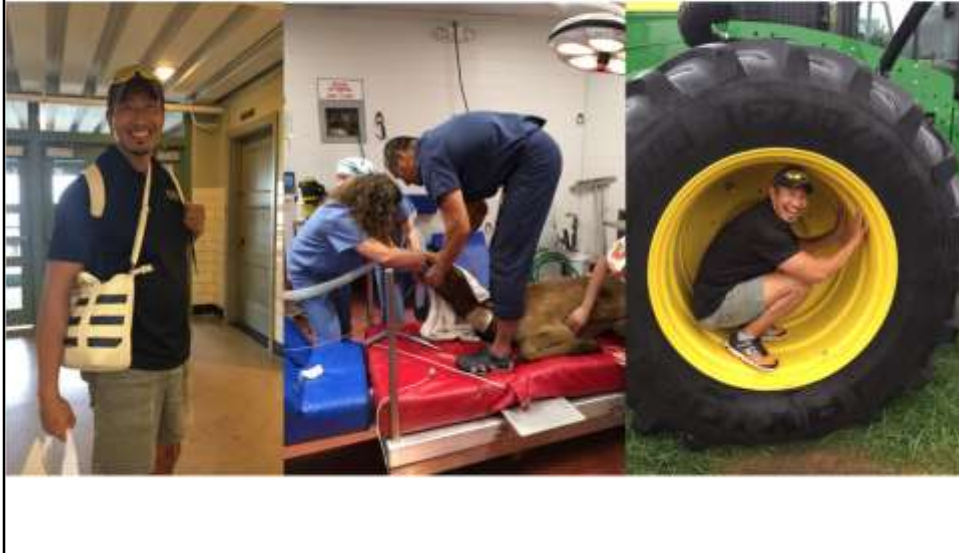
某有名ハリウッド俳優と同性同名のウィルスマスさんです。

獣医学科の渉外担当で、二週間の間ずっと私たちに同行して下さいました。

彼とのやりとりは英語のみでしたが、わかりやすいように簡単な英語を使ってくれたり、いつも笑顔で優しく接してくれました。

そろそろお子さんが生まれるようなので、もしかしたら来年にはお子さんに会えるかもしれません。

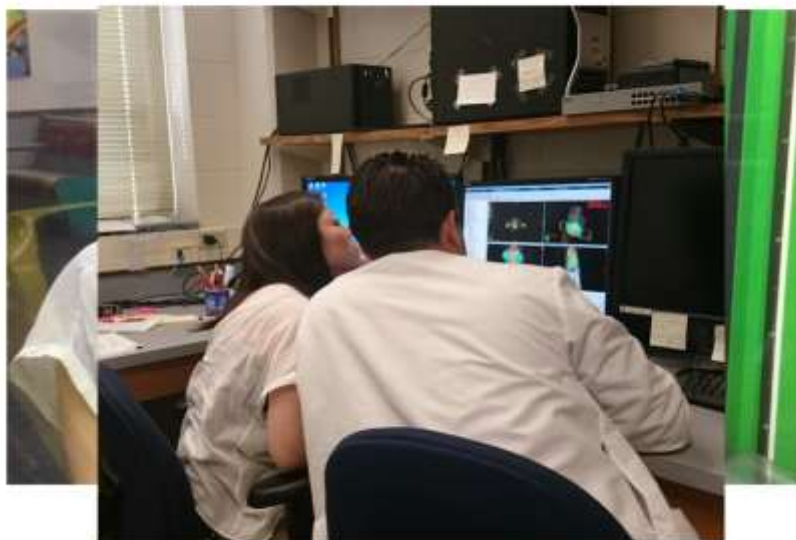
Dr.井上



麻酔科の井ノ上先生はアメリカの大学を卒業して獣医師となった先生です。
先ほどのウィルさんと一緒に日常のお世話と動物病院内でのことは、井ノ上先生に
フォローしてもらいました。
病院内では英語、それ以外の部分では日本語でやりとりしていました。

非常にパワフルで笑顔が素敵な方でした。

Dr.村上



放射線腫瘍学の村上先生です。

村上先生は日本の大学を出て獣医師になり、研修医としてパデュー大学でお仕事をされています。

平日はご自分の診療科のお仕事をされていますが、夕方や休日は私たちに同行してくださり、日本語で助けていただきました。

この写真は、最終日に行ったゲームセンターで真剣にゲームをする村上先生です。

【クリック】

次は治療計画を考えている村上先生です。

ご紹介した3人の先生方は忙しいにも関わらずより楽しく快適に過ごせるように接してくださりました。

現地での生活

- 学校から車で15分ほどの一軒家に宿泊
- 朝と昼は基本的に自炊
- 平日は大学に登校し、診療科を見学
- 夕方にパーティーや買い物
- 週末はIndiana State FairやIndianapolis Zooなどへ
- 移動は基本車

今年は去年と違い、学校から車で15分ほどの一軒家を男女別の二軒に宿泊しました。宿泊所では設備が整っていたため基本的に朝は自炊をし、不備なく過ごすことができました。登校以外にもスーパーなどの移動はWillと井上先生が運転してくださりました。

平日のタイムスケジュールとして7:30に登校し、それぞれの診療科を見学しました。17時に診療が終了し、夕方はDr.Thompsonという先生の自宅で行われたホームパーティーや買い物に連れて行ってもらいました。

週末は、ステイトフェアというお祭りや、水族館と動物園が合わさっているインディアナ動物園に行きました。

宿泊先



私たちが滞在した家です。

例年とは異なる宿泊先だったそうです。

宿泊所からコンビニは歩いて行ける距離にありましたが、夕方には閉まってしまうので、買い物は、ウィルや井ノ上先生に車でスーパーに連れて行ってもらいました。

写真は男子の家で、全員が集まるのはこちらの家でした。

家にはリビングルーム、ベッドルームが4部屋、バスルームが3こ、洗濯機と乾燥機があり、かなり快適な2週間をおくることができました。

宿泊先



こちらは女子の家です。
構造は若干違いますが、先ほどの男子の家とほとんど同じ作りになっています。

宿泊先



食材は最初のうちは私たちの前に滞在した人たちの余り物をもらい、朝食は家で食べ、昼食は大学のカフェで食べたり、家で調理したものを持参したり様々でした。

夕食は、外食であったり、パーティーであったりが多くそんなに多く自炊することはありませんでした。

また、ウィルの奥さんがラザニアを作ってくれて私たちの家で一緒に食べたりもしました。

そして、家の周囲は住宅街ですぐ目の前には公園もあつたりして、夕日がとても綺麗でした。

【小島終了】

診療システム

- 診察には学生も参加
- 病院には3年生と4年生
- 3年生は後期から半年
- 4年生は3週間ずつ各診療科をローテーション

【町田開始】

病院には3年生と4年生がいて

3年生は後期からなので春からの半年間自分の希望する診療科に所属し

4年生は3週間ずつ、全ての診療科を周り卒業となるそうです。

診察は主に学生が始めに問診をとり、次に日本でいう研修医のレジデントやファカルティーと相談をしながら診療を進めていました。

診療に深く学生がかかわっているのが特徴です。

診療科について

- 麻酔科(大動物、小動物)
- 外科(大動物、小動物)
- 内科(大動物、小動物)
- 往診(牛、馬、ブタ)
- 行動学
- ICU・ECC(集中治療・緊急医療)
- 腫瘍科
- 放射線科
- 腫瘍放射線科
- 理学療法

診療科には平日の午前と午後見学に行きました。

事前に訪れる診療科は決まっていたが、現地でその他にも見学できました。

個人個人毎日見学する診療科は異なり、病院内では一人でいることが多かったです。

各診療科には学生、研修医、専門医のほかに動物看護師に当たるテクニシャンの方々がいらっしや、主に学生とテクニシャンたちが私たちに色々なことを説明してくださりました。

他にも、循環器科や歯科等ありますが、主にこのスライドの赤字で示した科について説明します。

麻醉科



麻醉科は麻醉の必要な診療科全てに行く診療科です。外科はもちろん、放射線科や循環器科などのさまざまな科で麻醉導入などを行うので、大動物のオペも小動物のオペもどちらも見る事ができ、1日にたくさんの種類の動物や診療の見学ができました。また、麻醉科には私たちに同行してくださっている井ノ上先生、他にももう一人日本人の先生がいらっしゃる、わからないことは日本語で確認することができ、細部までしっかり理解することができました。

小動物外科



小動物外科は、本校のように軟部外科と整形外科に分かれ、曜日ごとに診察日が分かれ毎日平均して5件の手術が行われていました。

月曜日は週末にECCにかかった患者の手術があるので軟部も整形も手術していました。

私たちは、手術室の中まで入って手術を見学できました。

手術の際には、患者に対して担当の学生が麻酔導入から手術、覚醒まで全てに立ち会っていました。

整形外科は1日に4件も前十字靭帯断裂の手術がありました。

小動物内科



先ほども説明したとおり、検査や治療を学生やレジデントが中心になって進めていて、そこに一緒に参加させていただきました。
犬や猫だけでなく、蛇やハリネズミ、七面鳥などエキゾチックアニマルも治療に来ました。

大動物



大動物では牛、馬だけでなくアルパカやエルクといった日本ではなかなかいない患畜がいました。学生は担当患畜の問診から処置まで行っており、私達はオペを見学するだけでなく処置などの手伝いもさせていただきました。北里大学の講義で学んだ、トレッドミルやレーザー治療、蹄葉炎のX線撮影などを初めて実際に見ることができ理解が深まりました。

往診(左:馬 右:牛)



往診には馬、牛、豚の三つの科がありました。

いずれの科もトラックの荷台にたくさんの薬品や器具があり、現場で必要なものはほとんど積んでありました。

向かった農場はどこも広く、飼育管理が徹底されていてきれいだなという印象でした。

往診(ブタ)



また豚の往診ではFairOaksという、隣の州のシカゴにある豚と牛を飼育し、観光業も行う農場に行きました。月齢ごとに部屋が分けられており、見学できるようになっていました。

この施設は畜産の現場を一般の方に理解してもらうようにさまざまな工夫がなされていて、日本にはない施設の一つでした。

放射線科



放射線科は動物病院の中央あたりに位置し、各診療科から依頼を確認し、動物を受け取り、学生が主にレントゲンを撮影し、テクニシャンにこのX線写真が読影に値するものかをチェックしてもらいます。

オッケーがでた画像をその撮影者が読影を行い、レジデントや専門医の先生に所見を尋ねられ、知識を深めていきます。

超音波検査は先生が行い、学生はその保定をします。主に、エコー検査を行う患者はレントゲン撮影も事前に行いそれを確認しつつ、先生はエコーを行います。

また、必要に応じてCTやMRIも撮影していました。

朝と夕方に毎日二回レジデントや専門医の先生と学生との間で、ラウンドが開かれ、その日や前日に撮影された画像について説明やディスカッションを行います。

ちなみに放射線科にも日本人のレジデントが在籍しています。

行動学



行動学は火曜日と木曜日が診療日で多くて午前と午後一件ずつの診察でした。診察はオーナーさんから話をじっくり聞くため一件あたり2時間ほどの診察時間でした。

写真にはありませんが、マジックミラーやカメラでこの部屋の様子を見ることができ、マジックミラー越しに見学していました。

診察は事前のアンケートを元に学生がオーナーさんに質問をしていき、レジデントや専門医の先生が足りない部分を付け加えていき、動物たちの様子はテクニシャンがビデオにとったり、餌を与えてみたりして、何かあればがあれが学生やレジデントに伝えていました。

ちなみに行動科の先生は緒方先生という日本人の女の先生でした。

【町田終了】

Activities

- Columbian Park Zoo
- Dr.Thompson宅でのパーティー
- Cook Out
- Indianapolis Zoo
- Indiana State Fair
- その他

【うちー開始】

今回の研修で行った学外でのイベントについてご覧の6個を紹介します。

このほかにも、キャンパスツアーやアイスクリーム屋さんやゲームセンター、ショッピングモール

ステーキハウスなどにも連れて行っていただきました。

Columbian Park Zoo



ここは宿泊先の近所にある小さな動物園した。
プレーリードックになった気持ちになれるプラスチックドームやカワウソの餌やり
ワラビーやヤギ、ヒツジ、アルパカなどと触れ合うことができました。
また、蝶のいる小屋があり、そこには様々な種類の蝶が飛んでいて、蝶が実際に羽
化しているところも見れました。

Dr.Thompson's house



平日の夕方

病院での診察後に一般診療科のトンプソン先生の家でパーティーがありました。パーティーには学生や病院の先生なども訪れ一緒にお話したり、ゲームを楽しみました。

先生の家には地下室があり、そこでは卓球やサッカーゲームができました。

左下の写真は寺島先生とトンプソン先生がサッカーゲームをして点を決められてしまった時の写真です。

もし来年行く場合は、トンプソン先生は負けず嫌いなので 接待卓球をおすすめします。

ちなみに今年は、我々が勝ってしまったので明らかにトンプソン先生の機嫌が悪くなってしまいました。

Indiana State Fair



土曜日にステイトフェアに行きました。

ステイトフェアは名前の通りインディアナ州のお祭りです。

ペットのしつけ大会や牛、馬、豚、ヤギ、ヒツジなどの品評会や農作物の品評会も行われていました。

品評会以外にも移動式の遊園地やたくさんの屋台があり歩いて回りきれないほど大きなところで開催されていました。

また、パデュー大学もブースを出しており、腹腔鏡の体験や実際に去勢手術を行ったりしていました。

Indianapolis Zoo



日曜日はインディアナ動物園に行きました。

到着すると動物園の治療スペースを見学し

サイと象の飼育スペースを見学させていただきました。

サイはツノが折れてしまい治療中とのことで、手術の際に麻酔を行ったのは私たちに同行してくださった井ノ上先生だったそうです。

サイと象には特別に触らせていただきました。

園内は幾つかのゾーンに分かれ、動物種ごとのスペースは日本の十倍以上でとても広く、またおりこそ違うものの一つの視野にガゼル、象、チーターが見れたり、写真はオランウータンの遊ぶ柱があったりと、日本と異なる展示法が採用されていました。

Indianapolis Zoo



また、動物園内には海獣もおり、イルカやアシカのショーもみることができました。イルカのプールは日本の二倍以上ある大きなプールでのショーでした。ショーの後はイルカのプールを下から覗くことができました。また、ここではセイウチの飼育スペースを見学しました。

Caught in a traffic jam



インディアナ動物園からの帰宅途中

ハイウェイで交通事故が起き出口まで3キロのところで、2時間渋滞につかまってしまいました。

写真にあるように、続々と車から降りてきて

サッカーや犬の散歩などしている人もいました。

止まるな、車から降りるな、駐車するなと書かれた看板と一緒に記念撮影できました。

ポップコーンの豆を運ぶトラックが衝突し、炎上してしまい道路を塞いだことが原因だったようで、通過する時はポップコーンのいい匂いが立ち込めていました。

Cook Out



近所の公園に業者の人がハンバーガーなどを用意してくてピクニックをしました。多くの学生や先生方を誘ったのですが、この日インディアナ州全域に竜巻の緊急警戒警報が発令され、一部の人は大学の地下シェルターに避難したりと大変な事態で、あまり人は来ませんでした。お家での夕食とはまた違った雰囲気を楽しみました。食事をしながら談笑したり、水風船を投げ合って遊んだりしました。ちなみに、私たちがいた地域は快晴で竜巻を感じさなほど穏やかで、夕日がこの日もとても綺麗でした。。

帰国？



帰国の日また車でインディアナ空港まで行き、
お土産を買ったり昼食をとったりした後
お世話になった先生方にお礼とお別れをし、搭乗口へと向かいました。

すると

What happened!?



掲示板にはご覧のような予定と
ご覧のようなメールが送られてきました。

12時53分発の飛行機が
みるみる遅延していき
インディアナ空港で6時間も待ちぼうけをくらい
挙句、シカゴでの乗り換えが不可能になり
帰国できなくなってしまい延泊が決定しました。

延泊



とりあえずシカゴまで行き航空会社の用意してくれたホテルに一泊して帰国となりました。

ちょうど東京には超大型台風が直撃寸前で、さらに帰国が延びることも考えられましたが無事に帰国することができました

最後に



パデュー大学の動物病院には多くの日本人の先生がいらっしゃる、各診療科にて専門的なこともわからないことは最悪、日本語でやりとりできるので、全くわからなかったと言うことはありませんでした。

また、診療科によってはその日の診療科でのことを答え合わせでき誤解がなく動物病院で過ごせました。

病院の見学は事前にある程度予定が組まれています、融通が利くように見学する診療科を変更することもでき、現地で面白そうな症例や診療時間の空き時間も手持ち無沙汰になることはありませんでした。

行く前までは不安でしたが、特にトモ先生がいろいろと面倒を見てくださり、不自由なく 2週間を過ごすことができました。病院内でも声をかけてくださったり、いつも私たちのことを気にかけてくださいました。

北里大学の先生方やパデュー大学の先生方を始め多くの方のご支援頂き、2週間の研修で貴重な経験を積むことが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました

